



平日にもかかわらず、県内外から多くの河川関係者が集結し、熱心に意見交換を行いました



吉野川交流推進会議
会長 福永 義和さん

素朴な県境ににぎわいを創出できたように、何も無いと思っているところに資源の種はあります。

NPO法人 利根川流域交流会
理事 江幡 禎則さん



坂東太郎 利根川

吉野川交流推進会議創立20周年の節目に、徳島市で日本三大河川シンポジウムを開催

平成24年に兄弟縁組を締結して以来、日本三大暴れ川の仲間として連携・交流を深めてきた利根川、筑後川、吉野川。今年度のシンポジウムは、吉野川交流推進会議創立20周年の記念イベントとして、徳島市において開催。河川の景観とにぎわいづくりをテーマに、なごやかに、そして活発に意見交換が行われました。



筑紫次郎 筑後川

筑後川地域全体をブランド化し、流域を「大筑後川市」というひとつの都市にしたい。そんな夢があります。

NPO法人 筑後川流域連携倶楽部
理事長 駄田井 正さん

まず初めに、吉野川交流推進会議会長・福永義和さんから、当会議の活動や兄弟縁組の経緯についてご挨拶。「三河川の素晴らしいところ、流域での活動を紹介し合いましょう。流域間の交流から地域を盛り上げていきましょう！」と呼びかけました。そして、2つの講演(↓P3)に続いて、それぞれの河川の自慢の景観と、にぎわいをもたらす取り組みについて、三河川の代表者によるパネルディスカッションが行われました。

吉野川の魅力を高め、川を通じた交流を深めることを目的に、平成10年7月、吉野川交流推進会議が設立されました。本年度で創立20周年を迎えるにあたり、11月2日、徳島市のザ・グラントパレスに約100人が集い、「日本三大河川シンポジウム2018」が開催されました。4回目となる今年度は「河川の景観とにぎわいづくり」がテーマです。



四国三郎 吉野川

続けることは難しいけれど、続けることが大切。楽しみながら続けていると、行政も企業もみんなが助けてくれます。

吉野川交流推進会議
副会長 中村 英雄さん

トップバッターは長男・利根川。新たな観光地として人気が高まりつつある「平地の三県境」について、NPO法人利根川流域交流会理事・江幡禎則さんが紹介してくれました。「三県境」とは、3つの県にまたがる1か所の県境のこと。三県境は全国で40か所以上ありますが、ほとんどが山間部や川の中。ところが、群馬県板倉町、栃木県栃木市、埼玉県加須市にまたがる三県境は、全国で唯一、平地に存在し、「気軽に歩いて行ける」と注目を集めているのだとか。栃木県側の地権者が手作りの案内板を設置するなどの活動を始めたのが約20年前。インターネットやテレビ番組で紹介され、訪れる人が増えてきたことから、行政も支援に乗り出しました。